

アルファベット、表意化への試み

北 端 信 彦

はじめに

前号紀要『藝術29』において、筆者はデザイン学科コミュニケーションデザインコースの学生の“観字”作品を報告した。ここでは同じ学生達の“アナグラム”作品を報告する。

漢字で素晴らしいセンスを見せた学生が同じように英文でも良いセンスを見せるとは限らないが、学生達は漢字とアナグラムを合わせて5回（5週）の限られた持時間で制作するので、前半の漢字に3回を要した学生は残りの2回で1人提出4作品を考案し、制作することになる。

アナグラムとは

anagramとは手持ちの辞書『グローバル英和辞典』佐々木達・木原研三・福村虎次郎編／三省堂によれば、「字謎、つづり換え、(例えばemit→time, item→miteなど)。つづり換え語、字謎遊び」等と出ている。

周知のように、アルファベットは、AからZまで26文字の表音文字でできている。欧米諸国の書き言葉は、この26文字を並べることによって単語が成立し、そしてこの単語を文法に従って並べることによって文章が成立するが、先の辞典の例で見たように、並べる順序を入れ換えると全く意味の異なる単語になる。

タイポグラフィーとして、この並び換え遊びであるanagramはイギリス、フランス等では18世紀以降の上流階級の、パーティー等の座興で盛んに行われたらしい。が、しゃべり言葉の遊びなので残された資料というほどのものはほとんど今日に伝わっていない。折から発達した新しい印刷用の書体の開発と共に、今度はしゃべり言葉ではなく印刷文字が使用され、タイポグ

ラフィーの実験作品として我々の目に触れるようになった。背景に、文字が特権階級のものだけではなく、一般庶民が使用するようになったことがあるのはいうまでもない。

それらタイポグラフィーの実験作品のうちで、筆者が忘れられない作品としては、ウイル・バーチン作の「slap」がある。中央のe2つが逆さまになって目を表し、なおかつeのバーがベースラインまで下がっているものである。使用書体オールドスタイル・ローマン〈キャスロン〉の小文字のeはバー（ヨコ線）が真ん中にはなく、かなり上部に位置するが、それを逆さまにすると、脛が、下がっているように見え、“眠る”、“睡眠”の意味が、より、見る者に強く伝わることになる。ここに表音文字の表意化がある。

課題は、この意味性の強調、誇張をベースに、遊び心、ユーモア、機智、シャレ、諧謔、穿ち等といった軽みを求めたが、これがけっこう難しい。また、課題では地図の記号、交通標識、数字等公的に認知されているものも使用してよいとした。

最後の仕上げはコンピューターを使ってプリントアウトされているのだが、コンピューターに初めから内蔵されている書体（フォント）のサン・セリフ体には、活字の時代程、完成度の高い良い書体が少ないのには弱ったことである。

また、タイポグラフィー作品として完成度を求めるなら、その作品に必然性のある書体を選ばれるか、近代的、機能的な同一書体で4作品とも揃えるのが賢明であろう。

なお掲出作品は、アイデアは学生のものであるが、作品の主旨を損じない限りにおいて、書体はuniverse65を用いて北端が統一した。

NAME



1

CHAMPION

2

WALK

3

footba11

4

- 1 NAME（名、姓） D06-055 小芝ももこ
NAMEとNAMAЕが同じ意味で、つづりがA 1文字あるなしの違いであることに気づいた。
- 2 CHAMPION（優勝者、選手権保持者） D04-088 谷口 彰
後方から読めばNO1である。
- 3 WALK（歩く、歩くこと） D03-133 松永舞依子
Lのカタチを足に見たてて1本増やした。
- 4 football（フットボール、サッカー） D02-064 坂井悠亮
末尾のllを1チームの人数11とした。坂井は数字を扱うのが巧みである。

SLAMP

5

E E RULER

6

goods

7

tvvins

8

- 5 STAMP（スタンプ、…に印を押す） D04-109 平岡 学
Tを逆さまにしてスタンプとした。他者の作品に
EMPTYのYを逆さまにしたものがある。
- 6 RULER（定規、物差し） D04-231 中山真佑子
Eを重ねて目盛りとした。同様のアイデアで他者作品に
LADDER（はしご）があった。
- 7 goods（商品、品物） D04-088 谷口 彰
oが3つになると漢字の“品”にもなるところがミソ。
- 8 twins（双子の1人、からます） D01-011 伊藤康平
つづりの5文字すべてを2文字ずつにタブらせた他者
の作品もあったが、WはVが2文字からなることに着目
したこの作品を採った。

C L OCK

9

magNet
S

10

drip

11

- 9 CLOCK (置時計、掛時計) D02-010 石田有希
Lがアナログ時計の4時5分を指している。
- 10 magnet (磁石) D03-023 岡本 崇
NとSはもちろん北と南。
- 11 drip (滴る、しずくが垂れる) D04-134 三原圭子
iの点をしずくに見たてた。
- 12 WAY (道、方向、習慣) D04-241 小金丸美紗
Yをヨコにして岐路に見たてた。

WA Y

12

noon:oon

13

chew M

14

dive v v

15

SizeML

16

- 13 noon（正午、昼） D02-035 笠井香織
古くは他者の作品にFORNOONHELFというのがある。
- 14 chew（…を噛む、熟考する） D05-048 桂藤三紀
Wを歯に見たてた。やはりWでないといけないアイデア。
- 15 dive（飛び込む、急降下する） D06-052 栗原 悠
vが下へ降下する矢印になっている。
- 16 Size（大きさ、サイズ） D03-020 岡崎 彩
相当強引なMLの持ってきかたではあるが末尾へ置いているので読める。

eCO₂logy

17

half

2

18

graph

19

- 17 ecology (生態学、環境) D06-004 浅井恵美
Co₂はNo.と並んで今や環境問題の主たる要素。
- 18 half (半分、2分の1) D04-261 田中理絵
同様なアイデアではsaleのlを1に替えた作品が他者にある。
- 19 graph (グラフ、図表) D06-003 秋田大輝
aやhの積み重ねを棒に見たてた。
欧米ではもっと広い意味に使われるようだが、
学生は「折れ線」や「円」になじんでいる。
- 20 count (…を数える、…を勘定に入れる) D04-212 吉永みつき
0を0に替えて9と1を加えた。

count

20

Window

21

TOTOilet

22

cut

23

- 21 window (窓、窓ガラス) D06-061 小山ちえ
風は窓より入る。つづりの頭と末尾が同じWであるので可能になったアイデア。
- 22 Toilet (トイレット、洗面所) D03-024 岡本寛明
欧米の人達に通じるかどうか不明だが日本人なら思わずふきだしそうになるケッサク。
- 23 cut (切る、刈る) D03-039 北端明日香
tの頭頂部はHelveticaは水平だがUniversは斜めにカットされている。
文字はさわらず、三角形を加えている。
- 24 week (週、平日) D02-015 井上 慧
1週間は7日だが、そのうち平日は5日

weeeek

24